

研究室紹介

★研究内容

★研究の
きっかけ

★先生方の
学生時代

★趣味・息抜き

★学生への
メッセージ

etc...

人間探求領域 人間行動科学授業科目群

坂田省吾 先生 有賀敦紀 先生

社会探求領域 現代社会システム授業科目群

片柳真理 先生 横藤田誠 先生

自然探求領域 数理情報科学授業科目群

向谷博明 先生

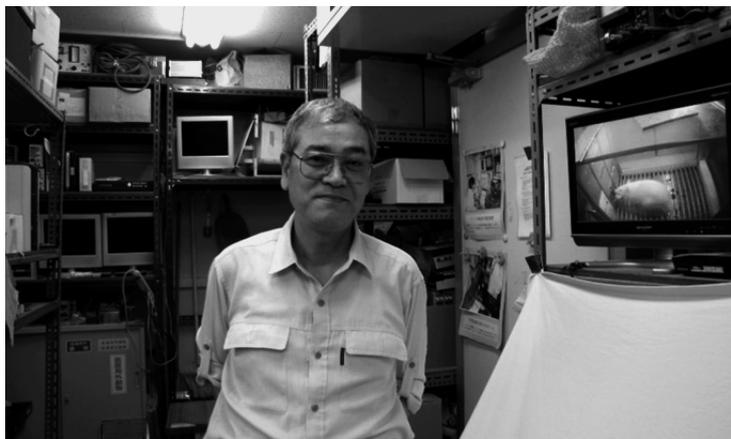
自然環境科学授業科目群

ヴィレヌーヴ・真澄美 先生

人間探求領域

坂田省吾 先生

担当科目 学習を中心とした整理心理学的な脳と行動の研究、時間心理学



Q. 先生の研究内容について教えてください。

私は、時間の経過にすごく興味があって、時間の経過をどうやってみんな測っているのかな、感じているのかなっていうのを知りたいです。

体内時計とはちよつと違うんだけど、時間の感覚です。今こうやってインタビュー受けてて、その時間が長いのか短いのかっていうのは、多分その時の状態でずいぶん違うんですよ。話の内容でも変わるんですよ。特に楽しいことやつてるときっていうのは、すごく早く過ぎちやうし、つまらないなあ、困ったなあ、早く時間がたたないかなって思ってるほど長く感じます。そういう風なものが、どうやって行われているのかなっていうのを知りたくて、脳の中を知りたいです。心理学の分野でもいろんな分野があるんだけど僕の分野は、生理心理学とか時間心理学と呼ばれているような分野になるんです。主にはネズミを使った実験が中心です。ネズミも賢いんですよ。今の時間も30秒なら30秒とい

う時間を教えると、ちゃんとその時間がわかって30秒ごろに反応のピークが来るんです。時間とともに行動が変わっていくという、そういうことをやっています。

Q. 研究のきっかけを教えてください。

きっかけは、素直に自分の人生そのものだと思います。小さいころは、夏休みとかお正月が早く来ないかなって待っていました。なかなか来なかつた。お年玉早くもらえないかなと思ってもなかなか。夏から正月ってものすごく長かつたんだけど、それが中学校入ってクラブ活動もやり初めて、高校に入ってから勉強に追われるようになったら、ものすごく時間が早く過ぎるような気がしました。その感覚っていったいなんだろうなと思つて、それを研究したかつたという、すごく単純な動機です。

Q. 大学生の卒論を書く時点で、時間の感覚に興味があつたんですか？

3年生になったときに、心理学

の中でも動物を使った実験をする
んだっていうのを僕は習ったんで
すよ。自分でもちよつと動物実験
してみたくなって思って、3年生
の後期から初めて実験をしたんで
す。そのときのテーマで、時間に関
する反応をネズミがどのくらいす
るかなって見たいと思って実験を
したんです。

**Q. 研究はずっと同じテーマでやっ
てるんですか？違うことに目移り
しないんですか？**

やりたいことは、本当に山のよ
うにあります。でもそのうち、でき
る実験は限られています。動物実
験の場合、データを得るのに大体
半年かかるんですよ。長い実験だ
と1年かかるので、なかなかデー
タとるのが大変なんですよ。

**—できる実験が限られてるって
うのは、時間的にですか？**

そういうことです。1日24時間
フルに実験できればいいけどそう
はいきませんからね。1日24時間
やってる、そういうサーカディア
ンリズムの実験もやったりするけ

ど、それにしてもそこはボックス
全部その動物で限られてしまいま
す。サーカディアンっていうのは、
1日1周期で1つのデータしか取
れません。まあ実験では少なくと
も30日間のデータ、だいたい2ヶ
月くらいのデータが必要なので、
ずーっとその実験だけで占められ
るからそれ以外の実験はできなく
なるんですよ。今ここでやって
るような実験は1つ1時間か2時
間でテーマを色々変えながら、い
ろんな違う実験をしています。ま
あそれぞれみんなテーマを持ってや
っています。

**Q. 研究の魅力は何だと思いま
すか？**

おもしろいところですね。それ
は、自分が興味を持って仮説を立
てて、その通りに結果が出たらお
もしろいですよ。ネズミの考え
てることがわかるぞ！みたいな。
今ネズミでやってるけどネズミだ
けじゃないんです。あくまで人間
の行動のシミュレーションみたい
なものになるから、人も一緒だな
あって分かるというわけです。

**—ネズミでやったことをその
まま人に当てはめたらおかしくな
るところもあると思うんですが、ま
た人間でも実験するんですか？**

人間では実験しません。人間で
の実験研究はいろいろあるし、人
間ではできない実験をむしろ動物
でやっています。人の場合に時間知
覚をやるのが難しいとかがどこか
っていうと、人は数を数えること
ができるというところ。その
数を数えるというのと、時間の長
さを弁別するっていうのを分ける
ってものすごく難しいんです。数
を数えないでください、って言っ
てもどうしても「10秒計りまーす」
ってなるとみんな頭の中でカウ
ントしちゃうんですよ。ネズミはや
っぱりそれができません。少なく
ともネズミが10まで数えられるつ
て研究結果はないので。そういう
意味でやっぱり、僕はなるべく実
験をシミュレーションに、問題点を明らか
にして、実験して思ったような結
果が出るとおもしろいです。

Q. 動物実験だからその苦労はありですか？

基本的に動物を扱うから毎日面倒を見ないといけないことですね。今は僕自身の実験とかはやってないから、学生たちが僕の苦労をしょってってくれています。皆基本的に自分たちの動物の世話は各自でやっていますからね。例えば、ちよつと用事あるからお前たち（動物たち）餌なしねってわけにはいかないから。でもまあ、一応誰かに頼んでお願いするときもあります。が、世話をしていくってというのが一番大変です。

Q. ネズミの研究をしている中で何か息抜きのためにしていることはありますか？

もうネズミの世話が息抜きになっています。とつても可愛いですよ、ネズミは。ネズミは基本的に夜行性だから、基本昼間は寝てるんです。ネズミって言うてもいろんな種類がいますが、今実験してるのはミスター系のラットでよく実験動物として使われるネズミです。真つ白いネズミ。そこにいるのは、

ネズミって言うてもテグーっていう別の種類のネズミ。

——いろいろな種類のネズミがいるのは実験ごとで分けているからなのですか？

そうですね、実験によってちよつと違います。この白いネズミはアルビノラットっていうんだけど、色素が欠損してるんですよ。だから目が赤いんだけど、視覚刺激に対してはあんまり向いていません。ムロムイバンスは黒いネズミだから、ちゃんと視覚、見え方もよく見えるだろうっていう風に言われてて、だから視覚実験に使われています。

Q. ネズミの世話以外の息抜きの方法はありますか？

最近できなくなっちゃったんだけど、野球とかテニスとかのスポーツは好きです。ウインターカンファレンスっていう冬の学会があるんだけど、それはできるだけスキー場の近くでやります。だからその時にスキーを少し。楽しみがないとね。研究はもちろん楽しい

んですよ。でもそれ以外の楽しみも必要ですよ。

Q. 先生がしようと思った研究を他の誰かが似たようなことをやっていたりすることはないんですか？

中々ないですね、これが。もつともつとやってほしいと思うんだけど…。

だから皆頑張つて研究者増やそうとしています。世界中に同じ研究している研究者を見つけたらENCOURAGEしてもつともつとこの研究をやった方が良いよつて応援するけど、そんなにいないんですよ。

——先生がこれ調べたいなって思ったときに、すでに調べられていたのかどうかを調べるのが大変じゃないかと思つていたんですが。

それは調べますよ。大変ですね。昔は今みたいにインターネットとかも無かつたから、実際に元の論文にあつて見て読んで、それで関係がある資料なんかをコピーしてとかやつていました。今はそういう意味で楽です。キーワード入るだけで山のように出てくるか

ら。でも今回はありすぎてどれを
読むか迷いますね。全部読めない
ので。
まあそれでもやはり便利にはな
りました。

**Q. 印象に残った研究はありま
すか？**

自分がやった一番初めの研究で
ある、時間の相対化。それもそうだ
し、その後、小論文の実験で取り組
んだ、時間を待ってから反応する
というパターンのもうちよつと難
しいスケジュール。20秒という時
間を計らせるのに、刺激の回数を
変えていきました。僕の仮説なん
ですけど、中に入ってくる刺激の数
が変わると、忙しいな、とか暇だ
な、とか思う違いは、その時間の中
にどれだけやらなければならぬ
ことがあるか、どれだけ刺激があ
るか、ということじゃないかって思
います。空虚な時間で何もしないで
ここで10分待ってくださいってな
るととても長いんですけど、ちよつ
とこの作業をできるだけやっとい
ってくださいって言われた時の10分
ってあつという間に過ぎちゃうだ

ろうなつて思つて。それをネズミ
でやってみようと思つてやってみ
たわけです。そしたら、思った通り
に刺激の数が多いほど、そのピー
クが前にきて、早く回つたという
データが出ました。それで、刺激の
数を少なくすると、ピークが後ろ
の方にずれたという結果になりま
した。それがとても面白かつたで
す、思った通りになるじゃないか、
と思ひました。でもそれがなぜか
がまだ分かりません。現象として
は出るんですけど、脳の中でどうい
う処理をやっているからこういう
結果になるのか分らないんで
す。それはまだ途中で、結果は出
ません。

Q. 学生時代について教えてください。

僕は総合科学部の出身なんですけど、面白かつたですよ。友達同士で
ずーっと遊びまわつてたかな。僕
は3期生なんですけど北は北海道か
ら、南は沖縄までほとんどの所か
ら同級生来てたから。で、お金なか
つたし、友達の家で泊まり歩いて
旅行しようかなつてしてました

よ。

——北海道とかは飛行機で？ヒッチ
ハイクですか？

いいえ。北海道に行ったときは、
急行ですね。急行と在来線と乗り
継いで。あの頃は、今でいうと青春
18きつぷ、昔は周遊券つていう名
前であつたんですよ。周遊券は、急
行の自由席は乗り放題なんです。
指定は取れないんですけど。あの頃
はまだ、大阪から青森まで夜行の
急行が出てたんですよ。17時間乗
りっぱなしかな。そういうのに乗
つていつて、行きましたね。すごく
面白かつた。1年生の初めての夏
は、北海道に行きました。そのとき
はまだ、北海道の友達とはそんな
に仲良くなつてなかつたのでユー
スホステルに泊まりました。

**Q. 研究とか学問に本腰を入れ始め
たのはいつですか？**

4年生になつてですね。3年生
の後期から実験をやり始めて、4
年生から。それまでは、遊びまし
たね。
友達が山形の米沢つてところの
出身なんです。僕は、大学に来るま

ではスキーしたことなかつたから。まあ、米沢だから当然スキー知ってるじゃないですか。で、彼の実家に泊めてもらって、裏山で初めてスキーしました。スキー場じゃないんです。山の新雪を踏み固めて、ちよつとなだらかなところの斜面すくってそこで初めてスキーをするっていう。

——道具とかどうされたんですか？
彼の家にあるものを貸してもらって。スキーってこんな大変なんだったって身をもって知りました。大汗かいたもん。それからスキーは好きになりましたね。実際にはあんまり上手くなかなかつたんだけど。広島でも冬になつたらスキー行けるのは知ってますよね。スキー場があつて行けるんだけど、広島にいる間は、行ってもうまくありませんでした。雪があんまよくないんですよ。べと雪で。上手い人ならいいんだけど。就職してから志賀高原に行きだして、志賀高原の丸池つてところに泊まつて4回5回くらいいったかな。その正月ごとに泊まり込みで志賀高原で

スキーしましたね。こんなに上手かつたかなっていうくらいスリッと滑れるんです。雪がいいってこういうことなんかなくて思つて。全然違います。

Q. 学生時代に力を入れていた言語はありますか？

学生時代は英語よりむしろフランス語やりました。フランス語は面白かったです。

——フランス語が、卒業してから活きたことってありましたか？

ありましたよ。カナダのモントリオールに行った時。モントリオールはほとんどの人がバイリンガルなんです。英語とフランス語と。モントリオールもね、いい場所ですよ。あそこに、マッキール大学つてあるんですけど、学長までやつた人にドナルドヘッドつて人がいて、そのヘッドはこの学習に対して、ネズミはいろいろなことを学習していくと脳にあるニューロンとニューロンをつなぐシナプスのところが、情報の伝達が良くなつて、で学習ができる。ヘッド型シナプスと呼んでるんだけど、多分

間違いないという形で、でそういうことをやってる人たちが、あーへんにいるので、面白いですよ。

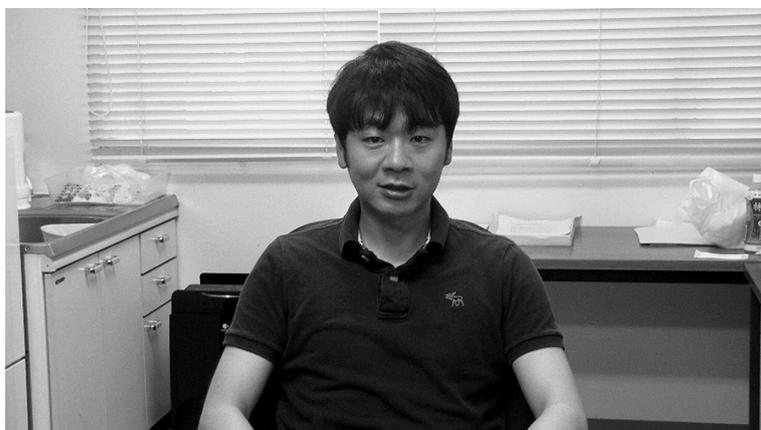
Q. 学生に一言お願いします。

なんでもいいから一生懸命やってくください。手抜いたつて自分のためになりません。なんでも一生懸命やったら、何か自分のものになります。やりたいことが見つからない人もまだたくさんいると思うんだけど、とにかく目の前にあるものに対して一生懸命やつたらそのうちどつか開けてくると思いますよ。興味がある人はどんどんそれを突きつめてやってみればいいし。下手に手を抜かずに一生懸命やるのが一番いいですね。1つのことが決まっていればそれでもいいし、1つのことに決めずに、いろんなことに出会つたら、いろんな出会つたことに対していいから、一生懸命やつてください。

人間探求領域

有賀敦紀 先生

担当科目 心理学、認知行動科学



Q. 研究内容について教えてください。
認知心理学を専門に、人間の認知的な情報処理、特に視覚、目で見られたものがどうやって脳の中で処理されているのかということなどを調べています。視覚の場合はディスプレイに物を映してどう見えるかという実験などができます。
| 視覚の研究を始めたきっかけは何ですか？
僕は広島大学の教育学部心理学系コースで学んでいました。心理学を学ぼうと思ったのは、結構消極的な理由でした。高校で理系・文系に分かれるとき、理系はかたくていやだなと思って文系にしました。そして文系の中でも今まで勉強したことがない何かを勉強したくて心理学を選びました。当時の先生が視覚の研究をされていたので、もともと興味があったわけではありませんが、僕も研究を始めました。また、心理学というのは視覚の研究が圧倒的に進んでいて、研究がしやすいというのも研究をはじめた理由

の1つです。
| ではたまたま自分の興味に合ったということですか？
そうですね。認知心理学の授業を受けたときにこれは面白いと思いい、もっと調べたくなって先生の研究室に行き、色々な本を紹介してもらいました。そして読んでいくうちにこれは面白いなというところで、そこから主体的に学びました。興味があるものが見つかるまではつらいと思います。でも、やっぱり勉強は楽しいです。受験勉強などは結果を求められるのが苦痛ですが、大学の勉強は自分が得るだけなのでぜひ楽しんでもらいたいです。
色々な授業を受けているとつまらない授業もあると思います。それでも、自分はこれに興味がないってわかることだけでも大きなものだと思います。そういうことをしているうちにこれが好きってわかるし、これはダメだっていうことを知るのも大事です。興味がある授業をとることも大事ですが、興味がないものも試しにとってみるとか、時間が空いてい

るから興味はないけど出てみようってやってみてください。嫌だったら途中でやめてしまえばいいですから。

Q. どのように研究内容を決めていきますか？

そういうのは訓練なので、この先、3年生や4年生で研究をして、大学院に行くのであれば研究をしていくうちにそういった目が養われていきます。周りもそういった人ばかりなので。学部生のころは何も考えていませんでした。そこは気にしなくても訓練で身につくと思います。余裕がないとダメなのだと思います。あまりに忙しいときは僕も研究の事は考えられません。ただ日常生活の中であれは何なんだろうって考えています。意識しているわけではないけど、ふとそう思うときがあります。学生には難しいかもしれませんが、余裕をもってください。お金もないし、授業に追われているかもしれないが、夏休みなどの余裕ができるときに、面白いなとかもつと調べたいなとか気づ

く点があると思います。

Q. 心理学はどのように勉強すればいいですか？

心理学は高校までに全く触れることがない学問なのでイメージがつかみづらいから、まずは授業をとって話を聞いてください。すると、心理学ってこういうものってというのが大体わかってきます。それをベースに勉強すればいいのではないのでしょうか。

数学みたいな公式を覚えるとかでもないので、最初のうちは知識を手に入れるのが先です。どういう現象があるのかとか、どういうふうに見えるのかっていうのを学べればいいのかと思います。教科書などを読んでいくと自分の興味があるところとないところが見つかると思うので、教科書を読むのもいいと思います。興味が見つかつたら、それについてもう少し専門的な本を図書館で探してみればいいと思います。

最初は広いところから入って道を狭めていく感じですか？
そうしたほうが好きなものも

見つかりやすいと思います。それで、もし全部気に食わなくても、自分はこの分野には興味がないと知ることができるので、それだけでも意味があると思います。

Q. 今の研究分野の展望はありますか？

知覚や無意識が人間の行動に与える影響などについて研究をしたり、今は消費者心理学といったものの研究をしたりしています。例えば、お客さんがお店に入ったときにどういう陳列の仕方だとか物が売れるかとか、どういった物が消費者を引き付けるかといった研究です。僕はそれぞれがそれなりに発展していけばいいかなと思います。実はあまり長い目で見られない性格なので、単発的に、今これがやりたいっていう研究をしてしまいます。だから、何か1つを追究して発展させていくっていうスタンスにはあてがえます。どうしていきたくないかというプランはないですが、そういう研究者になりたいと思っています。

Q. 大学時代について教えてください。

ほとんど記憶にありませんが、基本的には遊んですごしていたと思います。1年生、2年生は友達と休日にサッカーをしたり、飲みに行ったり、車を持っていて友達と少し遠くに旅行に行ったりしていました。今の学生とあまり変わらないと思います。3年生の後期ぐらいに大学院に行こうと決めて、3年生、4年生は勉強を続けていましたね。今思えばもう少し遊んでおけばよかったと思うほどには勉強しました。

Q. 大学時代にやっておけばよかったことは遊び以外にはありませんか？

特にないです。あまり後悔をしない性格なのかもしれません。ああしておけばよかったとあまり思わないです。

—それは今やりたいことができているからですか？

そうですね。後悔してもキリがないですし(笑)仕方ないことだから、今を頑張るっていう感じで

す。

Q. 今まで苦労したことは何ですか？

アメリカに2年間行ったとき、生活に慣れるのに苦労しました。生活が全然違うし言葉も通じないためこういう風に会話もできないし、自分の言える範囲でしかものを考えなかつたのでつらかつたです。

—アメリカへは自分の意志で行かれたのですか？

自分の意志でいきました。でも最初はいかなければよかったと思いました(笑)

2年間アメリカに住まないといけないプログラムだったので、覚悟を決めて住みました。半年から1年後くらいには楽しくなってきたからよかったですが、それまではつらかつたです。

—やはり英語はやっておいたほうがいいと思いませんか？

学生に言わないほうが良いかもしれませんが、実はあまりそうは思いませんでした(笑)。アメリカに行く前に英会話に通った

ことがあるのですが、あまり役に立たず、日本で1年かけて身につけたものがアメリカに行ったら2〜3週間で身につくという感じでした。やはりいきなり向こうに行ってサバイバルを経験したほうが身につきは早いかなと思いました。

—その2年間の苦労の上に得たものは何ですか？

英語が話せなくても生きていけるってことです(笑)例えばジェスチャーとか、単語だけ発するとかでも人は分かり合えるっていうのが分かりました。研究する上では英語はとても大事ですが、生きていく上ではそれほど英語は大切ではないというのを学びました。あと、我慢強くなりました。差別とか嫌な経験をたくさんしましたが、いちいち腹を立てていたらもたないの、何をされても我慢するっていう我慢強さは身についたかもしれません。

Q. 趣味は何ですか？

—漫画が好きです。
—一番好きな漫画は何ですか？

難しい質問ですね。たぶん研究者の性格上何かを追究しているのがかつこよく見えるので、宇宙兄弟とか。宇宙飛行士を目指してその勉強やトレーニングに打ち込んで、何か未知の世界に行こうとしているところが好きです。少女漫画とかはあんまり好きじゃないかな（笑）

Q. 息抜きは何ですか？

休みの日はジムに行つて運動をしています。体調が悪くない限り毎週行きます。あと、ストレス解消にお酒を飲みます。

Q. 総科生にひとことお願いします。

大学生活や勉強は楽しんでください。自分の好きな分野であれば勉強は面白いものなので、それが見つかつている人は多分楽しんでるだろうし、見つかっていない人もまだ知らないだけだと思いますので、授業をいっぱい受けてください。僕は勉強したいと思う学生には手がかりを与えてあげたいです。こういう本が面白いよ

とか、こうやって勉強したほうがいいよっていうのを教えてあげたいと思います。せっかく総合科学部にいるのだから、幅広い授業を受けてみてください。



社会探求領域

片柳真理 先生

担当科目 平和構築論 など

Q. 先生の研究内容を教えてください。
研究テーマは平和構築です。平和構築というのは、武力紛争を経験した国や地域が平和を持続できるような社会に変わるための平和な社会づくりと言っていると思います。その意味では日本も振り返って見るとこういうことになるんですよ。日本を振り返った時にじゃあ東北の大震災が起こった時に何が先にかかっていうとそれこそ民間国が必要なサービスを提供できなかったら、ガバナンスがしつかりしているとは言えないわけです。オバマ大統領の広島来訪を機に、米の間の和解について考えたり、その意味でも平和構築ってすごく面白い研究分野だと思いますね。今やっている研究の1つは紛争で失われた教育機会の回復という研究プロジェクトで、これはつまり武力紛争があった時に学校に行けなくなったり人たちがその後どうやって教育機会を回復しているか、更に、2度目の教育機会がその人たちの人生にとってどういう意味

を持つか、社会にとってどういう意味を持つかというテーマで研究をしているんです。教育の重要性を示すことができれば、平和構築の中でも教育への取り組みを重視するよう提案することができるとは思います。

Q. どうしてその研究をしたのですか？

私は大学では外国語を学んでその言語が使われている地域の研究をするという国際関係コースに所属していました。大学院で卒論の延長としてアフリカについて研究し、就職後、もう一度勉強してイギリスで2つ目の修士号、国際人権法修士を結社の自由をテーマに取りました。その後にした仕事は、国連のPKO（平和維持）だったんです。平和に関わる仕事をしていたら、自分のやりたい事も変わってしまっただけです。

ボスニア・ヘルツェゴビナの日本大使館で仕事をして、その後外務省から出向する形で、国際機関で働きました。その機関は、和合意の文民面の履行を監督する仕事

をしていました。治安改革、警察改革、様々な法律の策定にも専門に関わっていて、選挙の関係、つまり、民主化を進める仕事などもありました。ものすごく色々なことをやっていた。まさに総合科学的な！(笑)その経験から平和構築が私の研究テーマになったんです。平和構築の研究には現場での経験がすごく影響していて、私は地元の人の視線を常に重視したいと考えています。

平和構築はとても難しいことで、試行錯誤の連続です。それぞれの社会の特徴によって、上手く行ったり、行かなかったりするんですね。経験を重ねて、色々と試し続けるしかない。そうやっていかなければ可能性を広げられないと思います。多分私自身の研究も、文化人類学的な視点、地域研究等、色々な違った事をやっていると最後には結局すべて繋がっていくのだと思います。

Q. なぜボスニア・ヘルツェゴビナに行くことになったのですか？

もともとは、PKO(平和維持)

で、現在のクロアチアに行っていたんです。だから、旧ユーゴスラビアのことには関心を持っていました。その後、次の仕事を考える時に、ちょうどボスニア・ヘルツェゴビナの専門調査員の公募が出たんです。そこで、ボスニアや旧ユーゴスラビアのことをもっと知りたいと思って応募したのがきっかけです。

ボスニアの人たちは、とてもあたたかい人たちでした。ただ、前に出よう、という自己主張がすごく強くて、気質は難しかったですね。他者の前で自己主張することの少ない日本人との違いに、初めは戸惑いました。

Q. 現地で働くために英語やフランス語などの外国語は必須だと思っただけですが、どのようにして言語を身につけたのですか？

英語はエジプトにいる時に勉強し始めました。フランス語は大学で勉強しました。セルボ・クロアチア語はボスニアで個人授業を受けました。先生と友達になってしまえば、レッスンに行くと先生がご飯

を食べさせてくれたり、駄弁ったりしてましたね(笑)。それに加えて、私が担当していた選挙委員会での仕事は会議が多いんです。一日中やっている時もあるけど、通訳も頑張ってくれますけど、委員はものすごい勢いで喋り続けるんです。通訳が段々言葉少なになって、でも物理的に無理だと思わないで、あとは自分で一生懸命聞く理解できるようにしました。

Q. 先生の学生時代を教えてください。

高校は勉強だけでなく部活や行事にも力を入れている学校で、私はマンドリン部に入っていました。その中で私はフルートを吹いていました。かなり一生懸命する部活なので、進学のことにも常に気にしていたのですが、演奏会が近くになると夏休みとか土日でも毎日練習していました。大変でしたが結構楽しかったです。今でもその仲間たちと繋がっています。

大学は片道1時間45分の遠い所に通っていました。途中引越して

たんですけど、授業に真面目に出て、アルバイトをして、往復3時間半通学して結構忙しかつたですね。面白かったことは、外国語学部だったので語学修行をしようとして、3年と4年の間の春休みに1ヶ月半バックパッカーでフランス語圏を旅したことです。最初友達と2人で出発し、途中分かれて、最後合流して帰ってきました。大体こういうルートで行くというのを決めて行って、アルバイトで通訳した時に知り合った人を訪れたりしました。フランスとスイスとベルギーに行くと、フランスもほぼ一周して、良かったですね。面白かったのは、当時バックパッカーが流行っていて、行く先で知り合った人とご飯を食べに行ったり、作ったりしたことです。

Q. 学生時代に読んでいたオススメの本はありますか？

学生時代は研究の本ばかり読んでいました。今も研究の本ばかり読んでますね。皆さんには自分の興味のあるものについて本を読んでも欲しいです。著者は1冊の本を書

くのに相当な時間とエネルギーを費やしているんです。だから絶対、そこに詰まっている思い入れはすごく強いんです。例えば最初は新書でもいいんですけど。新書って薄いし小さいしって思うかもしれないけれど、相当なエネルギーがかかっているんですよ。新書を書ける人って、そのテーマを追ってきて、専門書も書いていたりします。でも一般の人にわかってもらおうと新書を書いたわけなんです。それを読むことによって自分の研究したいことが見えてくる。自分はこのうちの方に興味があるなとか、こっちに興味があると思っただけで、こっちの方がもっと面白いか、多くのことに気づけると思えますね。

Q. 総科生へ一言

このグローバル化の時代、外に飛び出して色々なものを見てくださ。外を見るということは、振り返って自分の状況を見ることにもなります。あとは授業の取り方ですね。総科は、色々な分野を組み合わせてられるのがいいところだと思う

のですが、コアを持って欲しいです。経済学だったり政治学だったり、自分の根っこになる研究分野が必要なんです。1年生のうちには色々試してみても、2年生以降は戦略的に固める分野を持つように、考えたほうがいいと思います。分野を絞ることは難しいですが、先生方に質問に行ったり、セミナーに参加して他大学の先生方のお話も聞いたりして、決めて行ったらいいと思います。

それから、学生で時間があるうちに、自分の興味のあるものについての本を読んでほしいです。1冊の本を書くのに、著者は相当の時間とエネルギーを費やしているんです。だから絶対、そこに詰まっている思い入れってすごく強いんです。そういうのを読んでほしいと思います。



社会探求領域

横藤田誠 先生

担当科目 憲法、医事法、社会保障法

Q. 人権についての研究は、具体的には何を研究されていますか？

不利な立場にある人々の人権が、適切に保障されるためにはどうすればよいかということについて研究しています。

Q. きっかけは何ですか？

きっかけは、高校時代に憲法13条の「生命、自由及び幸福追求の権利」の中で明記されている幸せという言葉に出会ったことです。

私は、中学まで障がい者の施設にいたので、高校で五体満足の健全者と過ごすことに劣等感を感じ、あまり楽しくない高校生活を送っていました。もともと、社会科学をし(学び)たいという意識は漠然とありましたが、憲法に幸せという言葉が明記されていることを知って、「自分らが抱えているきつい思いに、世の中が無関心じゃないかもしれない」と感じ、幸福を追い求める権利(憲法や人権)についてもっと詳しく知りたいと思いました。

Q. 研究をして分かったことは何ですか？

よく憲法学者は、人権を強い権利(人であれば誰でも持つ権利だ)と言います。しかし、個人(人)が権利を持つには、自分の抑制、主張ができること(自ら権利を主張できる強い個人であること)を前提にしています。だから、自分の思いをちゃんと伝えられない、あるいは場合によっては自分の置かれていた状況がよくわかっていない障がい者や、不利な立場の人にとっては、人権が十分に保障されない構造があるのではないかと気づきました。

実際、憲法には人権を保障するとたくさん書いてあるけれど、弱い立場の人の人権はほとんど保障されていません。なによりも人権を求めているのは弱い立場の、不利な立場の人なのに、そこに届いてないという現実を知りました。

Q. 不利な立場の人に人権が保障されていない例を教えてください。

あなたは街でよく大人の障がい者を見ますか？彼らのほとんどは山の中にあるような施設に入れられています。おそらく、善意で障がい者を健常者と同じ地域ではなくて施設においているのでしようが、僕たちにとっては故郷を奪われたようなものです。僕には生まれ故郷の福山には1人も友達はいませんが、（以前よりは改善しましたが、今でも多くの障害者が健常者と同じ地域ではなく施設で暮らしています。誰にも悪意はないのでしようが、どこで誰と暮らすのか自分で決められていません。5歳から10年間施設で過ごした私には、生まれ故郷の福山に1人も友達がいません。故郷を奪われたようなものです。）

Q. 先生の考える「平等」と「差別」とは何ですか？

平等には、同じようなものを持っている人に違う扱いをしてはな

らないという原則があります。逆に言えば、もともと違う人は違う扱いをしても構わないということだと思います。つまり、区別に合理的な根拠があれば、平等には反しないという考え方が今の社会に根付いています。この考え方が、人々を違う人に違う扱いをするというところが「差別」にならないという錯覚に陥らせました。（でも、社会がちょっと手を貸せば障害者も社会にもっと参加できるのではないでしようか。それが新しい「平等」概念です）

Q. 性別による扱いの差についてはどうお考えですか？

女性らしさ、男性らしさ自体を否定する必要はありません。しかし、今の社会では意思決定の場に女性が圧倒的に少ないことが問題だと思っています。社会が人を扱うときに、女性だから男性だからと言っただけで考慮しなければならぬことは、ほとんどありません。それにもかかわらず、女性の社会進出は遅

れています。原因は、社会の、女性はいかにあるべき、男性はいかにあるべきという考え方です。この考え方を取り除き、性別を理由にした扱いの差をなくさなければなりません。

Q. 大学ではどのような学生生活を過ごされましたか？

友達に恵まれた学生生活でした。自分の良さを知ってくれたので、それまでの劣等感が消えて、普通の生活を送ることができました。また、図書館で本をたくさん読んでいました。

Q. 学生におすすめの本はありますか？

AKB 48の内山奈月さんと九州大学教授の南野森先生が書かれた『憲法主義』がおすすめです。恋愛禁止やパパラッチ問題などについて、憲法を踏まえた話をしていて読みやすいと思います。

Q. 学生時代に本を読むことは重要ですか？

重要です。社会に出ると時間の都合上、仕事に関するものしか読めなくなりません。だから学生の間は、自分の感情の赴くままに読む乱読を勧めます。継続的ではなくても構いません。

その時の自分の感性が欲したものを、分野を絞らずに読んでください。学生時代は一番無責任でいい時代です。自分の将来を踏まえ、読むだけでなく、無責任な読み方をしてほしいです。それくらいの方が自由さが学生にはあります。

Q. それを踏まえて、学生にメッセージはありますか？

総合科学部では、同じ学部に所属していてもそれぞれが全く違う専門性を持っています。しかし、これは普通ではありません。この、様々な分野の学問に触れられる楽しさ、貴重さを感じ、学問の乱学をしてほしいです。総合科学部の学生は必ずしもなにかの専門家には

なれないかもしれませんが。しかし、人間の専門家にはなれると思います。人間という生き物は、極めて多様な面を持っていて、その人間に対して多様なアプローチをする様々な学問の一端を知ることが総合科学部ではできます。だから、いろいろなものにしっかりと触れて、自分の生き方を豊かにしてください。



自然探求領域

向谷博明 先生

担当科目 情報学、数理情報学 など

Q. 先生の研究内容を教えてください。

研究内容はシステム理論です。システム理論といってもたぶん聞いたことないですよ？
微分方程式はもう習いましたか？微分方程式と言わずにもっと高校生的に言うとか、物理。でも物理をやったことなかったら話は違いますよね。それで、物理はやっぱり「 $\frac{d}{dt}$ 」みたいにかけるのだけど、そこから始まりますよね。それ自体がほんともう微分方程式なので。例えば一番自分の話に関係するところで言ったら、新幹線を動かすにしても車を動かすにしても、モデルというのがないとダメですよ。何かうまくものを動かさうと思ったら物自体の何かが目安になるか、やっぱり微分方程式、要するにモデルというものがあつたらより制御しやすい。だから電気・機械とかは物理法則にしたがつていて、その物理法則は全部微分方程式にしたがつているから、その微分方程式に基づいて、もの

を制御することが専門です。車で言うとか、車は自分で運転するから例えば目の前に坂があつたりしたら、アクセル踏まないとか当然坂のぼらないし、スピードを出そうと思つたらアクセル踏む、ということ。それは人間が制御していませんよね。でもそれを全部自動でやっしまおう、ということ。例えば電車や車の揺れを自動的に抑えてくれるように、制御する。そのさらに基礎的な部分、数学寄りの理論を研究しています。そのテクニックが要するにシステム理論。だから、微分方程式に基づいていろいろなものも制御するので

Q. 先生が数学でそのようなことをやりたいと思つたのはなぜですか？
それはやっぱり数学が好きなのがあるかもしれないですね。でもはじめは、言い方が悪いけどものをいじるのがあまり好きではなかつたです。私が通つていた工専はまさにものをいじる学校だから、

私は電気工学科に入ったのですが、機械の授業や実習がありました。楽しい授業ではあったのですが、自分はこのことをするために来たのではない、これはだめだ、と思って。それからものはあまりいじらないようにしようと思い、その時から大学受験した方がいいなと思うようになりました。あとこれも屁理屈ですけど1年生の時にプログラミングがあったのですよ。いわゆる高校1年生の時です。そのプログラムというのが全然わからなくて。はまる人は多分はまるみたいですね。でも(自分にとっでは)全然面白くなくて。でも大学では役に立ちました。それでプログラミングは好きになりました。工専の時に数学をまじめにやって今では数学が好きです。

Q. そのような研究がしたいと思っ
たきっかけは？

本当は研究の時に配属したいと思
っていたのは、フアジイ制御。と
言っても分からないですよ。ル

ールを全部書いてプログラムして
制御する、みたいなのが当時流行
っていた。私はミーハーだったか
らそれをやりたいと思って、とり
あえずその研究室に入ったので
が、結局4人配属になって、テーマ
をどうするかというところ、じゃん
けんで決めました(笑)。そのじゃん
けんで負けて、フアジイ制御がで
きなくなってしまうことになった
が、システム理論。だから自分がや
りたくてやったのではなくて、し
ようがなくすることになりました。
でも今考えてみたら、フアジイ
はしなくてもよかったですと思いま
す。システム理論をやって正解だ
と思います。なぜなら、それが数学
ベースで自分に合っていたからで
す。きっかけはたいしたことでは
なかったです。はじめはやっぱり
こけましたが、今では満足してい
ます。一歩間違えたらここにもい
ない。本当に運ですね。運だけでこ
こまで来たと言っても過言ではな
いです。たどり着いたところがや
りたい事で居心地もいいですし。

Q. 先生についての質問をさせてい
ただきます。先生は大学生の頃は
どんな学生でしたか？

そりゃあもうコテコテのサボリ
でしたよ(笑)。工専の時はさすが
に大学受験もあったし真面目でし
たけど、あれは暗黒時代でしたね。
あの頃は本当に真面目な人だっ
と思います。大学に入ってからは
コテコテに遊んだつもりはないけ
ど、工専の時よりは勉強はしな
かったです。好きな科目は数学だっ
たから演習書を買ってひとりや
ったりしましたけど。そうはいっ
ても、「今から釣り行くぞー」とか
「今から山賊行くぞー」とか言っ
ていました。夜な夜なロイヤルホ
ストに行って朝までしゃべると
か。全然勉強の話ではなく(笑)。で
も好きなことは勉強していました。
た。その頃にプログラミングには
まったかもしれないですね。やっ
ぱり工専の時との繋がりがあっ
て。「あ、これはわかったらおもしろ
いな。」と思えました。だからそ
れ(プログラミング)には少しはま

ったかもしれないです。大学の数学は科目数がいっぱいあって、その中でも解析とか微分方程式は今でも使っています。好きだったから。好きなことはやって、嫌いなことはとことんやらぬ感じがしました。統計なんて何がおもしろいの？という感じでした。でもこれだけはやらなかったことが損でした。もつとやっておけばよかったと思います。もし今統計学をやっていたら一番の位置にいたかもしれないですね。今すぐく必要とされていますし。数学的にもきれいなところもあって。理学部数学科では扱わないような内容は好んでやっています。あとは遊んだらバイトをしたりしていました。極めて真面目な学生ではなかったです。今の自分がそこにいたら「やれよ。」と怒るかもしれないですね(笑)。「何しているんだお前。全然やっていないじゃないか。」とブチ切れそう(笑)。今は教員の立場だから当然授業とかはちゃんとやりますが。自分が教員として出すテ

ストを、学生の自分が受けたらそこそこできたと思います。大学の内容があまり入っていないテストだったの。というのも大学で勉強したからではなく、今までの蓄積があるからです。工専の数学が大学の初年度の数学も入っているからね。極めて工専はイレギュラーな課程だった。結局今までやってきたのをやっただけ、でした。とにかく、好きなことはやって、嫌いなことはやらぬ学生でした。

——部活とかは何をされていたのですか？

部活はしていません。2年生になって数理情報に入ってから、数理情報の人たちとつるんでサボっていました(笑)。(キャンパスが)千田にあって、千田にはなんでもあったからね。時間がきたらバイトに行こうか、みたいな感じでした。本当に好きなことばかりやっていました。

Q. 趣味はありますか？

趣味は結構ありますよ。酒とカープと釣り(笑)。この3つは抜きんでていますね。カープは調子いいです。

今の大学生の世代って、(カープの)優勝を知らない代だから…(前の優勝から)25年でしょ？もう忘れましたよね(笑)。確か大学4年生の時に車のラジオで聞いていました。観戦しに行きはしませんでしたが。釣りに関しては、キャッチアンドリリースではなく、キャッチアンドイート。食べられなければ燃えないですね。ブラックバスのような食べられない魚を必死に釣ろうとは思わないです。見返りがないから(笑)。常に食べておいしい魚(を釣る)。そしてさらに酒が付く(笑)。

——大学の教員の方と飲むことはあるのですか？

あんまりないですね。年には2年生を対象にした数理情報の新歓と、忘年会・新年会、歓送迎会があるので、月に1回あるかないかぐ

らいです。3、4ヶ月に1回ぐらいかな。あとは家飲みです。外で飲むと高いですからね。お酒を飲むと楽しいですね。もう酒を飲むために働いているのか、働くために酒を飲んでいいるのかわからないです。それくらいお酒が好き。酒が趣味なのはどうかと思いますが。真面目な趣味と言ったら、さつきカープが好きと言ったみたいに、野球観戦だけ今年はずマツダスタジアムにまだ2回しか行ってないですね。家で酒を飲みながら野球を見る。結局酒かい、みたいな(笑)。だから真面目な趣味は釣りかもしれないですね。釣りはもう全部忘れまじすね。あれだけは集中します。他の事は考えないです。

——それならカープのラジオを聴きながらお酒を飲みながら釣りをするといいのは？

(笑)。でも釣りをやっている時にそれはしないですね。まず釣りは1人で行くから酒は飲まないし、朝早くに行くからその時間にカープは試合をしていないです。釣りは釣りで、釣った魚は夜にカープを見ながら食べる。そして酒を飲む(笑)。それが一番至福の時ですね。そうなるために魚を釣ってこないといけない、みたいな。それが一番の贅沢かもしれないですね。

——今まで釣った魚で刺身にして美味しかったのはありますか？

太刀魚しか頭に出てこないなあ。だいたい太刀魚を釣りに行くことが多い。あとはたまに外道みたいな感じでこんなのが釣れるのか、というのには：鮎魚女(アイナメ)ぐらいかな。鮎魚女って知ってる？ ホッケみたいなの。ビール瓶ぐらいの大きさがあるんよ。そういうのも刺身にしたりとか。そんなのは狙っていつも釣れるわけではないけど。あと、チヌは知っているよ。黒鯛。あれはあまり好

かれていない魚。季節によっては磯臭い。でもたまに外道できて、食べたら美味しい時がある。でもやっぱり一番狙いに行って刺身になるのは太刀魚。あまり玄人釣りはしない。例えば浜田に行ってブリ・ハマチとかを狙うのではない。本当に俄か、車で1時間ぐらいのところまで釣れると行ったら今だったら太刀魚で冬になったらイカもいい。イカが一番いいかもしれない。でもイカはなかなか狙って釣れるものではない。あとは：カレイは刺身にならないし。釣った魚は刺身にするよりから揚げにすることが多い。刺身にする技術なんてないし。ヒラメも隣の人が釣っているのを見たことがあるけど、自分は釣ったことがない。ハマチは何回か狙ったことがあるけど釣れたことがない。スズキも。あれなら釣れたら刺身になるね。外道でも釣れる魚ではない。

Q. 総科の学生に一言お願いします。

せっかく大学に来たのだから、好きなものをきわめてほしいですね。本当は勉強が一番のターゲットになるかもしれないですが、ひよつとしたら勉強でない何かがあるかもしれないですね。嫌いなことはしなくてもいいとは少し思うけど、必要なものもありますよね。数学の教養などは。どうしても道具は必要になりますからね。あとは2、3年生になって科目群に分かれたら、好きなことをきわめてほしい。自分は好きなことをきわめられてかという、そうではないかもしれないです。数学は好きだったけど、数学の中でも好きなことしかきわめられなかったです。でも、それが今のベースになっていると思います。先ほどのシステム理論も微分方程式がベースになっているから、あれはきわめた甲斐があったと思います。(他学部と比べて幅広く学べる)総合科学部であっても、上手くきわめてほ

しいです。友達の手紙を借りると、やりたいことが2つあったら半分の力でやるのではなく、持っている力を倍にするということ。総科の数理情報に入れてよかったと思うのは、半分が数学、半分が情報でその境界が(研究)できたから。それで今がある。それこそ境界だからといって半々の力でやるのではなく、極力数学は理学部数学科の数学、情報は工学部の情報、という勢いでやっています。それだと強い力です。私はできなかったとはいえ、半々ではなかったと思います。半々だったら今のポジションはないと思います。理学部数学科のように数学全体ではなく、余分なもの削ってピンポイントで好きなことをやる。情報もプログラムを作ってシミュレーションをすることに特化する。このことによつて今があると思います。そういう意味では総科はいいところですね。本当に言いたいのは、分散してやるのではなく、境界でも何でもいから複数科目を自分の持つて

いる力を2倍にするくらいの勢いでやってほしい。それは成功すると思います。それが私からの言葉です。説教ではないですけどね(笑)。



自然探求領域

ヴィレヌーヴ・

真澄美 先生

担当科目 両親媒性物質の吸着・分子

集合体形成・相転移の熱力学研究

Q. 研究内容を教えてください。

私の研究分野は、コロイド界面科学というものです。界面というのは物体と物体が接触しているところにできますが、そのような構造があつて初めて起こる現象があります。細胞膜には生体の界面がいつぱいあつて、肺には、酵素を効率よく血液中に取り込むために、細胞という小さい袋状構造にすることで、表面積を広げています。界面で酸素の受け渡しが行われますよね。界面というのは「物」ではないですが、そういう場があつて初めて成り立つものがいつぱいあつて、そういう場で起こる色々なことを研究しています。

今取り組んでいるテーマの1つは「米のパン」です。かつて会社勤めしていた頃の同僚から声をかけてもらつて一緒にやっている仕事なんですけど、コロイド粒子が界面を安定化する現象が絡んでいます。具

体的には、小麦のパンにはグルテンというタンパク質が含まれていて、網目構造ができているため、イーストが作る二酸化炭素を閉じ込めて膨らむことができます。しかし米にはグルテンが含まれていないので、網目構造を作ることがありません。そのため、一般的には米粉のパン生地に増粘剤を加えて二酸化炭素を捕まえられるようにしているのですが、最近、米粉を作るときのお米の挽き方に新しい技術ができて、増粘剤を加えなくても膨らむパンができるようになりました。お米の粒が生地と空気の界面に吸着することで、シャボン玉の膜のような現象が起こって、泡を安定に保っていると考えています。実際に米デンプンの粒子が空気／水界面をどれくらい安定化するのか、という測定や、粒子表面の特性を調べるなどの研究をしています。

Q. そのような分野に興味を持ったきっかけはなんですか？

高校の化学の授業で「ミセルコロイド」というのを初めて習ったときでした。いろいろな化合物が原子と原子が結びついてできてるんですけど、共有結合のような強い結合ではなくて、それに比べるとかなり弱い結合なんだけど、分子が自分たちで集まって、ある決まった大きさや形のものを作るっていうのを聞いたときに「面白いなあ」と思いました。物質の間に働く力にはいろんな強さの力がある、というのが面白いと思ったのに加えて、そんなに強い力じゃなくても構造を作ることがができる、というのが面白かったですね。

Q. もし先生が広大生だったとしたら、やってみたいことや入ってみたいサークル活動はありますか？

ダンスのサークルに入って

みたいですね。実は大学生の時に民族舞踊研究会というサークルでハンガリー、バルカン半島やメキシコ（サークルでは「メヒコ」と発音しました）などの民族舞踊を踊っていました。衣装も手作りで、その衣装を着て学祭などで発表していました。当時は全国の大学に民族舞踊研究会というのがありましたよ。広島大学にもありましたよ。時代の変化とともに民族舞踊はヒップホップダンスに置き換わりました。

Q. 学生の時には研究などもされていたと思うんですけど、先生はどちらに重きを置かれましたか？

本当の研究をするのは4年生になつてからだったんです。1〜3年生の時にも学生実験はありましたが、そこまで大変なものではなかったのので、サークル活動やアルバイトなどと問題なく両立してました。な

ので、あまり勉強量は足りなかった気がしますね。(笑)でも4年生になつてからは、毎日早朝から夜遅くまで、実験と実験の待ち時間に勉強という生活に変わりました。

Q. 先生は何故今の仕事を選ばれたのですか？

学生の時は大学の先生になろうとは思ってなくて、ただなんとなく「研究者になりたいな」と思っていました。私は九州大学の理学部を出たのですが、当時、当時は男尊女卑の風潮もあつてか、テーマの与えられ方も男子学生と違うなと感じましたね。同級生約70人のうち女子学生は18人ほどで、そのうち大学院修士課程に進学したのは4人ほどでしたし、途中でやめてしまった子もいて、結局修了した時には3人でした。研究室でも、男子学生は教授から「博士課程に行かないか」などの声をかけられていたみたい

ですけど、私はそんなこと言われなかったですね。4年生と修士課程で研究していた内容が面白かったので、そういう研究が続けられる化粧品会社に一度就職したんです。でも、基礎研究より製品研究を重視する会社だったので、なんとなく面白くないと感じていました。

そんな時、大学で働いていた夫が、「学費を出してあげるから大学院に行ったら」と言ってくれたんです。当時は結婚もしていたし、これから食いつばぐれることもないだろうと、前の大学院の博士課程に行ったんです。そして博士号を取った時に運良く大学の助手に採用されました。だから本当に運が良かったとしか言えませんね。

Q. 広大に来る前は、どこにいらしたんですか？

広大の前は埼玉大学の理学部基礎化学科にいました。さらにその前は徳島大学の生物工

学科で、ここが大学勤めの一番最初の場所です。埼玉は子供達が小さい頃に過ごした場所なので、色々な思い出があります。私は広大に来てまだ日が浅いですけど、職歴の中では一番いい環境だと思っていますよ。

Q. 休日の過ごし方を教えてください。

次の週の献立を考えます。三食は考えませんが、朝食は適当にして、子供はお昼に給食があつて、私が夜ご飯を作ります。なので一週間分の夕食の献立を考えて、買い物します。得意料理は、煮込み料理です。でも、自分の味付けがもう嫌なですよ。なんか味付けすると決まり切った味付けになっちゃうじゃないですか。だから、3分クッキングという愛聴番組があります。(笑) あそこで紹介される料理は本当にレシピが練られていて、まずいものは紹介されないんですよ。だから

一週間分録画して土曜日にまとめて見ます。

あとは週末は洗濯物が多いですよ。子どもが体操着を持って帰ってきたり、上履き持って帰ってきたりとかするので、そういうことを片付けて終わる感じですね。

Q. 総科生に一言

総科生はとてもユニークです。理学部や工学部だと必修科目が多いからみんな似たような感じになってしまふけど、総科は何でもありだから変わった人が多いのかな。(笑)

早いうちにやりたいことを決めておくのがいいと思います。やりたいことを決めずに色々な授業を取っているだけだと知識が相互に結びつかなくて結局何も得られません。総合科学だからといって専門性がないわけではないのです。

もし理系に進みたいのなら理系の基盤科目を取っておいて

欲しいです。というより、取っ
ておかないと後で苦労します。
理系は積み上げ型の学問だか
ら基盤となる知識がないと、授
業内容を理解できなくなっ
てきます。

総科生には町おこしをする
サークルなどボランティアを
する学生が多くて、素晴らしい
ことだと思います。でもボラン
ティアのために授業をおろそ
かにするのは間違っている
と思います。大学生のうち
に一生懸命勉強して力をつけて
から社会に貢献することが大事
です。誰もが大学に行けるわけ
ではないし、大学に入ったから
そ出来る勉強をして欲しい
です。